

第3回地下街と駅周辺地域活性化分科会記録

日 時 平成21年8月21日（金）19:00～20:00

場 所 小田原箱根商工会議所 4階 会員談話室

経 過

前回までに出た意見をまとめた資料を基に引き続き、第3回分科会を行った。後半（20:00～）は全体会を開催した。

〈主な意見〉

【イントロダクション】

- ・このままだと決定権のある結論が出せず「答申」で終わってしまう。大きな話もして、この勉強会で出た意見を起爆剤としたい。
- ・前回ゾーニングの話が出たが、商業優先ゾーンやお城ゾーンを作り、そのゾーンをリンクさせて住民と来街者の街を作っていきたい。
- ・危機感を共有していきたい（このままで良いのか？）。
- ・再開発（3事業）については、5～10年先を見据えて、開発のテーマを持って動くべきだ。
- ・新宿の歌舞伎町は、50年計画で変わろうとしている。
- ・3事業を共通したもの（シンボルの様なもの）を作ったら良い。実現化するためにどんな具体策があるか。
- ・居住者と来街者の為の一緒に集えるようなものを作りたい。
- ・小田原城を本物に建て替えたい、自分たちの手で建て替えたい（市民の手作り、資金も自分たちで出し合う）。コンクリートのお城では魅力がない。

【地下街の再生について】

- ・まずは地下街を優先的、集中的にやった方が良い。
- ・地下街のゾーニングを決めていきたい。まずは、成功例として作り上げたい。そのため、プロジェクトとして立ち上げたい。
- ・大きさ（キャパシティ）によって出来る事を決めていく。
- ・事業は運営できるところに任せたい（しかし、失敗は許されない）。
- ・公共施設は必要である。
- ・外部との入口（エレベーター）については、課題である。
- ・心のケアが要求されている。満足して来てもらえる店づくりが必要。

【まちづくり会社の設立】

- ・実行する組織を作る事がスタートで、こうあるべきだというものをこの勉強会で決めていきたい。
- ・具体的意見は検討委員会や、タスクフォースで網羅されている。
- ・期日を切らないと進まないのので年内に作るくらいのつもりでやっていく。スケジュール、予算をつけないと進まない。
- ・長期、中期、短期でやるものと分けていくことが大事である。

- ・テーマとして、「未来を小田原につなぐ、感動交流文化都市」を作るためのまちづくり会社を設立したい。
- ・まず形（法人）を作って、具体的テーマを「まちづくり委員会（仮）」にて意見徴収し実現させていきたい。
- ・長野市のまちづくり会社は、黒字化させていないが、行政が運営していれば、もっと赤字が広がっているだろう。
- ・明確なビジョンが必要で、今後、ビジョン作りを行っていく。

【大学生との意見交換】

- ・9月上旬まで夏休みなので、学校が始まったあと連絡を取り、10月上旬に意見交換をする機会を設けたい。イベントや街づくり等の話をしていきたい。

以上

<当日出席者> *順不同・敬称略

古川達高、古川孝昭、佐藤慎一、中戸川洋、豊住武志